

# 民間テレビ局のニュース原稿に関する一考察

——送り手と受け手の間の、読み方と語彙選択の齟齬をめぐって——

甲 斐 千代子

Some observations on news scripts of commercial TV stations-differences  
Between TV stations and viewers in the choice of terms and their pronunciations

KAI Chiyoko

**Abstract :** The purpose of this paper is to present the results obtained through the research on news scripts which were used in local commercial TV stations. First, it was emerged that many local commercial TV stations accepted the guidelines, laid down by the key stations in Tokyo, regarding the choice and the pronunciations of news terms. Some have created a database based on guidelines. Second, it can be recognized from the research that there are some differences between the TV stations and their viewers in the pronunciation of the name of this country and an expression about climate. Some viewers may feel uncomfortable with these differences.

**要旨：**地方放送局では、ニュース原稿や放送用語について、多くが加盟するニュースネットワークのキー局（在東京）の基準を準拠していることがわかった。ガイドブックなどの形で資料化されてもいる。放送に登場する「日本」の読み方と「気温の表現」については、今回調査した学生の使用実態との違いが明らかになった。この違いが、ニュースを聞く上で視聴者の違和感につながるのではないだろうか。

**キーワード：**民間テレビ局，ニュース原稿，放送用語，ことばの選択，視聴者

## 1. はじめに

筆者はこれまで5つの放送局でニュースの伝え手として仕事をしてきた。その経験から実感したことは、放送局によってニュース原稿に違いがあり、放送用語の扱いにも違いがあるということである。ただし、就職して初めて務めたテレビ局を除く4つの放送局では、ニュース原稿の作成はほとんど行わず、報道局の記者が書き上げた原稿や通信社から配信されてきた原稿を読む（伝える）だけであったため、各放送局のニュース原稿の特徴をつかむのは場当たりのかつ断片的であり、基準の存在やその内容を知ることはできなかった。しかしながら一つ言えることは、どの放送局でも「視聴者に理解してもらえるかどうか」が大前提であったということである。

本稿では、これまであまり扱われてこなかった、民間テレビ局の、ニュース原稿や放送用語の基準についてその存在を明らかにする。また、視聴者が実際どのようなことば遣いをするのかについて実施した実態調査に基づき、テレビ局におけることばの選択と、視聴者との違いについて考察する。

## 2. 資料について

本稿では以下の三つの資料を使用する。

在阪民間テレビ局の放送エリアは近畿広域圏、つまり、大阪、兵庫、京都、奈良、滋賀、和歌山の2府4県である。今回の調査対象は4つのテレビ局の夕方18時台のニュース番組である。在阪民間テレビ局は5社あるが1社は同じ時間帯にニュース番組を放送していないため、今回の調査対象からは除外した。資料1からは、ニュース原稿とアナウンサーのコメント、放送音声を使用する。

## 資料1 「ニュース番組調査」

調査日時	2011年6月13・14日の2日間
対 象	在阪（大阪にある）民間テレビ局4社の夕方のワイドニュース番組のうち、18時台のローカル枠。
方 法	番組の映像すべてを録画保存、一部を文字化した

## 資料2 「民間テレビ局への書面によるアンケート」

調査期間	2011年6月～7月
対 象	国内の4ニュースネットワークに加盟するテレビ局108社。
回 答 者	報道制作部を統括するもの
方 法	書面
結 果	46社から返信（内1通白紙回答）。回答率は41.7%

\* 質問項目によっては個人的な回答であり、テレビ局の見解とは必ずしも一致しないことがある。

日本の地上波テレビ局のうち113社は、東京にあるテレビ局をキー局にした5つのニュースネットワークに加盟している。ネットワーク内では、ニュースの素材（映像や原稿、その他の情報）を相互利用している。今回のアンケートでは、資料1にある4社が加盟する4つのニュースネットワーク108社を対象とした。

## 資料3-1 学生へのアンケート（1）

調査時期	①2011年11月 ②2012年5月
対 象	甲南女子大学アナウンス入門受講生 ①一般向け授業 ②アナウンサー・声優志望者向け授業
回答者数	①15人 ②25人

## 資料3-2 学生へのアンケート（2）

調査時期	2011年10月
対 象	①甲南大学文学部日本語概論受講生（18～21歳） ②甲南大学マネジメント創造学部学生（18～24歳・36歳）
回答者数	①85人 ②77人

## 資料3-3 学生へのアンケート（3）（「気温の表現」のみ）

調査時期	2012年7月
対 象	弘前学院大学（青森県弘前市）文学部学生（18～20歳）
回答者数	88人

\* 視聴者のサンプルとして学生をその調査対象とする。

### 3. 民間テレビ局のニュース原稿と放送用語の基準

資料2の民間テレビ局へのアンケートではニュース原稿や放送用語に基準があるかどうか、選択肢を設けてたずねた。設問は以下の通りである。

設問) ニュース原稿の作成に当たって使用することば、用語などの基準についておたずねします。

①貴局独自の基準を設けている ②キー局の基準に準拠 ③その他

テレビ局の回答を分析し、基準の項目を増やし表1のように分類し図1に示す。

表1 民間テレビ局の放送原稿と放送用語の基準

基準	局独自	局独自+キー局	キー局	キー局+その他	その他	合計
テレビ局数(社)	2	5	33	1	4	45
割合(%)	4.4	11.1	73.4	2.2	8.9	100

\*その他…共同通信、気象庁など

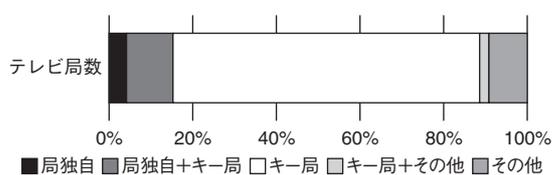


図1 民間テレビ局の放送原稿と放送用語の基準

すべてのテレビ局に基準があることが確認できた。複数回答も含めてキー局の基準に準拠する局が全体の90%近くとなった。独自の基準を設けている局は2社であった。

これまでも述べたがニュースネットワーク内ではニュース素材(原稿・映像・その他の情報)の相互利用を行っている。そこには統一基準が必要であり、キー局が基準を設け、地方局がその基準を準拠しているという状況が確認できた。さらに、ニュース原稿や放送用語の基準について、ハンドブックなどの形で資料化されていることも分かった。石野(2003)では放送で使われることばについて、その基準と変遷について述べているが、その主な対象をNHK(日本放送協会)の放送用語としている。その理由として「放送用語に関する取り決めとか手引きとかいった形で資料化されているもの、そういった資料が揃っているのは、NHKである」としており、民間テレビ局については触れていないからである。

資料化されている基準の情報公開についても質問した(表2・図2)。具体的な内容の開示が可能なのは28.9%である。資料の閲覧が可能なのは3社であるが、その内の1社は「市販されている参考資料の閲覧は可能」との回答だった。頒布の可否については、回答のあったすべてのテレビ局が「不可能」という回答だった。

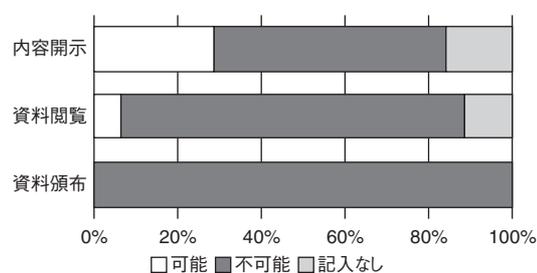


図2 資料の情報公開

表2 資料の情報公開

	可能	不可能	記入なし	合計(社)
内容開示	13	25	7	45
資料閲覧	3	37	5	45
資料頒布	0	45	0	45

### 4. ことばの選択

筆者はこれまでいくつかの放送局で仕事をしてきたが、仕事初日に必ず確認することばが2つある。それは「日本」と「気温の表現」である。「日本」は、「ニホン」と読むのか、あるいは「ニッポン」と読むのかという、語彙の選択ではなく読み方の問題である。「気温の表現」とは例えば「-3.5℃」をどのように表現するのかという問題である。筆者が最初に仕事をしたテレビ局で教えられた表現で、他の放送局で原稿を読んだ際「読み方が違う」と指摘をうけたため確認するようになったのであるが、更に困った状況になることもたびたびあった。同

一局内でもアナウンサーによって返答が異なる場合があったからである。

## 5. 「日本」-「ニホン」か「ニッポン」か

### 5.1 「日本」を巡る動き

そもそも、国号としての「日本」の読みは決まっておらず（表3参照）、この点に関してはこれまでに様々な先行研究がある。しかし今回は、「日本」の読みそのものを取り上げるのではなく、テレビ局と視聴者の読みの選択がどうなっているのかを取り上げる。

表3 国号「日本」の読みをめぐる政府の動き

1934年	臨時国語審査会「今後ニッポンに統一する」趣旨の決議をしたが政府は採択せず
1946年	憲法改正の国会論議「日本国憲法」の読み方が問題に。
2009年	閣議決定「ニホン」「ニッポン」どちらかに統一する必要なし

放送の世界ではNHK（日本放送協会）が1934年に、「放送用語並びに発音改善調査委員会」において「日本」の読み方について「正式な国号として使う場合はニッポン、それ以外ではニホンと言ってもよい」というNHKの放送で用いる際の基本方針を決定している。

### 5.2 アナウンサーの「日本」の読みの揺れとテレビ局の読み分け基準

では、実際放送では「日本」はどう読まれているのか。ニュース番組から2つのケースを紹介する。

ケース1) 在阪テレビ局B社夕方のニュースワイド番組6月14日（火）放送。

画面	読み手	原稿・コメント
スタジオ	男性	さて <u>ニッポン</u> が今、中国でブームとなっています。中国初の <u>ニホン</u> 情報誌。取り上げられたのは、あのテレビ番組でした。
〈コマーシャル〉		
スタジオ	男性	さ、こちらをご覧ください。中国で今年創刊された <u>ニッポン</u> についての情報誌です。
	女性	はい
	男性	こうした雑誌ができる程 <u>ニッポン</u> に強い関心が寄せられています。
	女性	今回この雑誌が目しているのは <u>ニホンの</u> リフォームです。中国人は今 <u>ニホン</u> から何を学ぼうとしているのか上海で取材しています。
映像	男性2	〔 <u>ニホン</u> 〕0回〔 <u>ニッポン</u> 〕19回
スタジオ	男性	これが「知日（ちにち）なんですがね、結構分厚いんです。（中略） <u>ニホン</u> 円でおおよそ450円ほどということなんですね。
	女性	立派な雑誌ですね
	男性	反日って言われると悲しい所がありますが、知日 <u>ニッポン</u> を知ってよくしていこうというのは、何かこう我々も嬉しいわけですね。

ケース2) 在阪テレビ局C社夕方のワイドニュース6月13日（月）放送スポーツ

画面	読み手	原稿・コメント
スタジオ	女性	三きょうだい揃っての代表は <u>ニホン</u> 体操史上、初めてです。田中選手が、兄、弟とともに、世界選手権代表入りを確実にしました。
〈コマーシャル〉		
スタジオ	男性	今年10月に東京で開かれる世界選手権で、田中理恵選手と兄、弟の三きょうだい揃っての代表入りが確実となりました。
映像	田中選手	「・・・ <u>ニホン</u> 代表になりたいです。」
スタジオ	男性	三きょうだいで代表入りは、 <u>ニッポン</u> 体操史上初となります。

ケース1・2を含め、資料1のすべてのニュース番組で、「日本」はどのように読まれているのかまとめたものが表4である。

表4 資料1のニュース番組内での「日本」の読み分け

テレビ局		話し手	[ニホン] の語例	[ニッポン] の語例
A社	アナウンサー	男性 A1・A2	—	—
		女性 A3	日本語	日本時間・日本人・日本
		女性 A4	—	—
		男性スポーツ	日本	—
	一般人 a1 (インタビュー) 一般人 a2 (インタビュー)	日本代表 日本・日本代表	— —	
B社	アナウンサー	男性 B1	日本情報誌 日本時間	日本②
		男性 B2	—	日本①⑦・日本総領事館・日本人・日本専門情報誌
		女性 B3	日本②	—
		女性 B4	—	—
	一般人インタビュー	日本全体	—	
C社	アナウンサー	男性 C1・C2	—	—
		女性 C3	日本体操史上	—
		女性 C4	—	日本一
		男性スポーツ	—	日本代表・日本体操史上 日本人投手・日本人②
	一般人 c1 (インタビュー) 一般人 c2 (インタビュー)	日本代表② 日本全体・日本中	— —	
D社	アナウンサー	男性 D1	—	—
		女性	—	—
		男性 D2	—	日本一
	一般人 (インタビュー)	日本	—	

\*—は使用例なし，○囲み数字はその語が使用された回数

表4をみると，一般人は全員が「ニホン」であった。アナウンサーについては，D社はデータが少ないため傾向などはわからないが，全体的には「ニホン」「ニッポン」が混在しており，それは同一番組内でも，また場合によってはアナウンサー個人にもみられる。民間テレビ局に「日本」の読み分け基準はあるのだろうか。

設問「日本」の読みは「ニホン」「ニッポン」いずれをお使いでしょうか。固有名詞などを除いてどちらの読みも間違いではありません（2009年6月30日閣議決定による）。ニュースを聞いていてもアナウンサーによって異なる場合もあるようですが，貴局でのご対応についていかがいます。

B) 局内での読みわけの基準などの有無について。

①ある ②ない

C) B) で「①ある」とお答えの場合，基準について具体的に教えて下さい。

資料2のアンケート結果，有効回答は39社である（表5・図3）。基準がないと答えた局の中に読み分けの指標を示した局があり，何らかの基準・指標がある局は全体の43.6%で，基準のないテレビ局の方が多かった。

「日本」の読み分け基準や指標のないテレビ局の場合，今回のアンケート回答が局の統一した見解ではない可能性もある。基準

表5 指標を加えた「日本」の読み分け基準有無

基準	ある	なし	記入なし	合計
テレビ局数 (社数)	17	20	2	39
割合 (%)	43.6	51.3	5.1	100

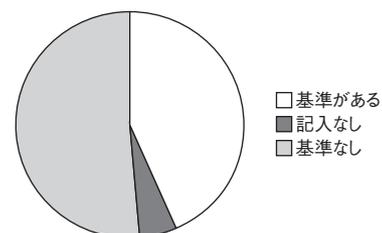


図3 指標を加えた「日本」の読み分け基準の有無

がないということは個人の判断に任せているとも考えられる。しかし、アンケート回答者は、報道を統括しニュース原稿の最終チェックをする立場の報道部長や報道デスクであることから、実際の放送にその読み方が反映される可能性は十分あると考える。

### 5.3 「日本」は「ニホン」か「ニッポン」か、テレビ局と視聴者の比較

テレビ局に「日本」と「日本」を含むことばの読み方を聞いた。同様の質問を学生に対しても行った。

設問 A) 以下のことばは、実際の放送ではどのように発音していらっしゃるでしょうか。

- a [ニホン] b [ニッポン] c 「両者いずれの場合もある」  
 ・日本チーム ( ) ・日本勢 ( ) ・日本文化 ( ) ・日本代表 ( )  
 ・日本政府 ( ) ・日本大使館 ( ) ・(文中で単体で出てきた場合の) 日本 ( )

「日本」についての結果を表 6 と図 4 に示す。a [ニホン] では学生の割合が高く、テレビ局との間で大きな差が出た。c 「両者いずれの場合もある」(今後「両者」とする) についてはテレビ局が 64.1% で、学生と開きがある。甲南女子 2011 を除くと、b [ニッポン] の選択者の割合は a・c と比べると大きな差はないといえる。

表 6 「日本」の読み分け比較

読み の 選 択	対象	TV	甲南女子		甲南大学	
			アナウンス入門 2011	アナウンス入門 2012	日本語学概論	マネジメント
ニホン (人)		6	15	12	67	64
	(%)	15.4	100.0	63.1	78.8	83.2
両方		25	0	4	0	2
	(%)	64.1	0.0	21.1	0.0	2.5
ニッポン		8	0	3	18	11
	(%)	20.5	0.0	15.8	21.2	14.3
合計 (人)		39	15	19	85	77
	(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

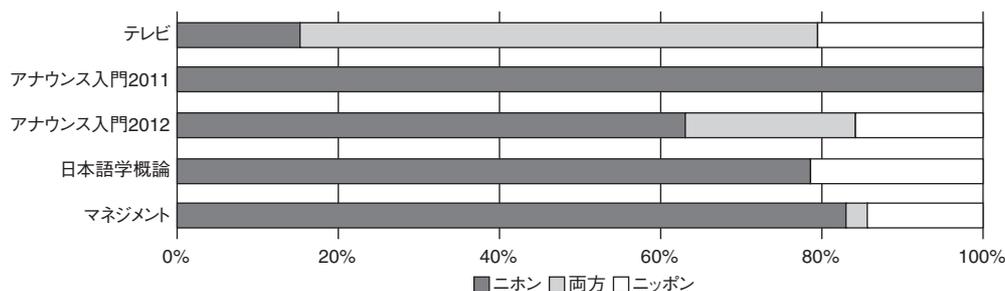


図 4 「日本」の読み分け

「日本」以外の語例については図 5 で示す (グラフに用いる凡例は図 4 と同じ) (今後は、アナウンス入門 2011 を KW11, アナウンス入門 2012 を KW12, 日本語学概論 = KIJ, マネジメント = KUM, とする)。語例によって違いはあるものの、学生は a [ニホン], テレビ局は [両方] の割合が高い。

KW12 では c の選択が確認できるが KW11 では確認できない。同じ「アナウンス入門」受講生であるが、KW12 は、アナウンサーや声優といったメディアで声を使った仕事に興味がある学生が 19 人中 15 人である。KW11 では 15 人中 2 人で、メディアへの関心の高さが、他の大学生と比べてテレビ局寄りの傾向を示した理由ではないかと考える。

7 つの語例をまとめて全体で見ると (図 6), 概論・マネと KW11 では、c の選択は少なく、ほとんど揺れることなく [ニホン] と回答している。ではなぜ、テレビ局では揺れる (両方) のであろうか。そもそも「日本」の

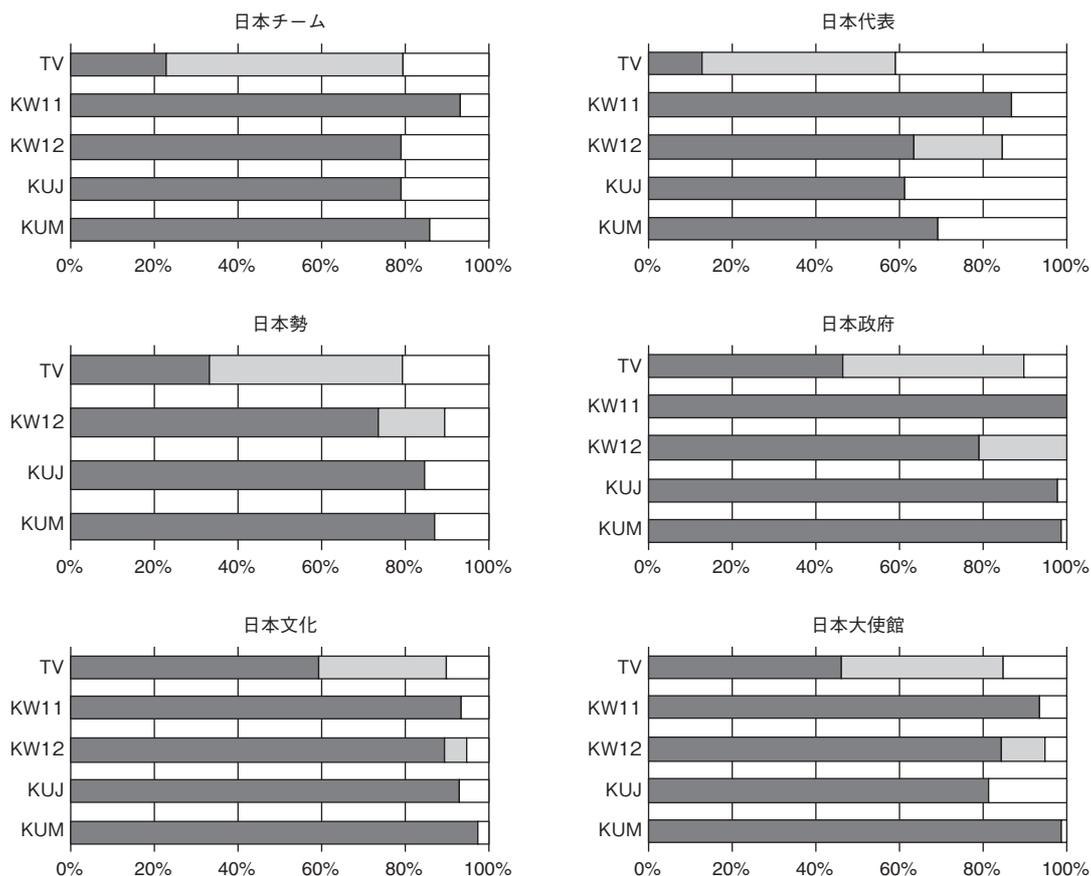


図5 語例別「日本」の読み分け

読みは、[ニホン][ニッポン] どちらも間違っていない。それゆえ「日本」の読み分け基準がないテレビ局では、読みが揺れる(c「両方」を選択する)のであろう。

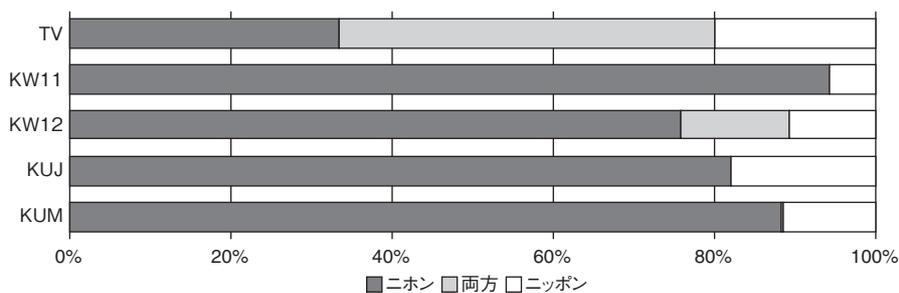


図6 「日本」の読み分け 総合

では基準があるテレビ局にしぼってみるとどうなのか。テレビ局が記した、基準についての具体的なコメントから考える。4つの系列をA~D、系列内で1から順に番号をあてた。

7項目すべてc「両方」と答えたテレビ局は4社ある。C-1・C-13・D-3・D-11である。そのうちD-3は「キー局の基準に準拠」と書いており、それは同じ系列のD-9と一致する。同じ基準を採用している2社であるが、実際の読み分けは、表7で示すように語例によって異なる。D-3・D-9 どちらが基準通りなのか、それとも基準自体が「どちらでもいい」となっているであろうか。D-3はすべてc「両方」で、「どちらでもいい」からD-9では項目によって「ニホン」を選んでいるのかもしれない

表 7 同じニュースネットワークで同一基準を示したテレビ局での「日本」の読み分け比較

語例	日本	日本チーム	日本代表	日本勢	日本政府	日本文化	日本大使館
D-3	c	c	c	c	c	c	c
D-9	a	c	c	a	c	a	c

また、基準の指標として「国内ニュースは [ニホン]、国際的なものには [ニッポン]」をあげたテレビ局が 4 社あった。結果は表 8 であるが、同じ回答となったのは「日本代表」のみである。後の語例は回答はバラバラで、この指標では回答者によって読み方がかわってくる可能性があることがわかる。

表 8 読み分けの「指標」が同じテレビ局での「日本」読み分け比較

語例	日本	日本チーム	日本代表	日本勢	日本政府	日本文化	日本大使館
B-5	b	a	b	a	a	a	a
C-9	c	b	b	b	c	c	b
C-12	c	c	b	b	a	a	b
E-1	c	c	b	a	a	c	a

\*E-1：会社名が不明

以上のことから、今後はテレビ局の読み分け基準の詳細な情報収集と、さらに多くの読み分けの実例収集を行い、よりはっきりとした傾向がみられるかどうか、検証を続ける必要がある。

## 6. 気温の表現

放送局で使われる「気温の表現」方法には二つのポイントがある。

- ・「℃」をどう読むか、
- ・0℃ 未満の場合はどう読むか

そこで今回は一例として「-3.5℃」について調査を行い考察を行う。資料 2 のテレビ局のアンケートでは次のようにたずねた。

設問 気温の読み方についておたずねします。

- A) -3.5℃ ( )
- B) A) のように読む場合、何か理由があるのでしょうか。
- ①局内で約束事がある
  - ②キー局の規定があり、それに準拠している
  - ③その他 ( )

表 9 「気温の表現」基準

基準	局内の約束事	キー局の規定に準拠	その他	合計
テレビ局数 (社)	13	26	4	43

ほとんどの局が何らかの基準を持っており、2つのニュースネットワークではキー局の基準に準拠ということで表現が統一されていた。「日本」に比べると基準が明確であることがわかる。また、4つの局では特段決まりがなく、アナウンサーの判断に任せている状況も分かった。アナウンサーによって表現が違うテレビ局も存在する。

同じ質問を大学生にもおこなった。テレビ局に対するのと同じように「-3.5℃」という表記を見せてしまうとそのまま読んでしまう可能性があるため、温度計の絵を示してカタカナ表記で記入してもらった。さらに口頭で、記号や数字を使用しないよう依頼した。以下の表・図では漢字・仮名・数字表記で示す。

表10 「気温の表現」読み分け

気温の表現 対象	氷点下3度5分	氷点下3点5度	零下3点5度	マイナス3点5度	合計(人)
TV	4.5	22.5	1	16	44
KW11	0	0	0	15	15
KW12	0	9	0	16	25
KUM	0	0.5	0	84.5	85
KUJ	0	0	1	76	77
合計(人)	4.5	32	2	207.5	246

\*1人で2つの回答があった場合それぞれ0.5ずつとして計算

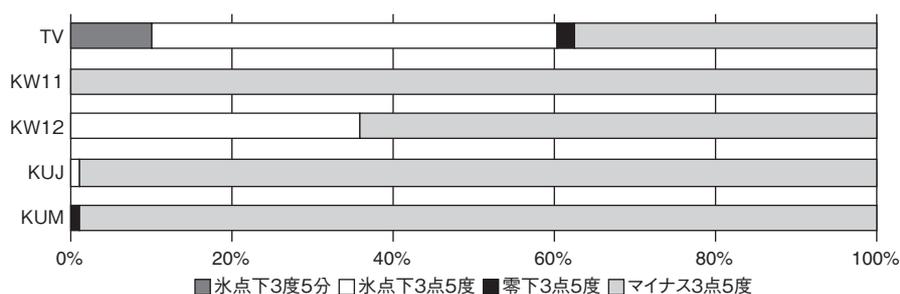


図7 「気温の表現」読み分け

学生全体とテレビ局を比較したのが図7である。学生の約94%が「マイナス3点5度」と答えており、テレビ局(38%)との差は明らかである。なおKW12については、アナウンサーや声優を目指す学生が多いことから学生全体に含めずに計算すると、学生(KUJ・KUM・KW11)は、99.1%となる。

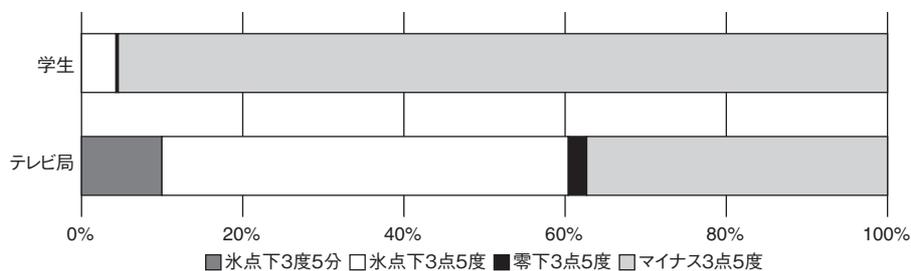


図8 「気温の表現」読み分け 学生全体とテレビ局

学生へのアンケート終了の際、複数の学生から「他にどのような表現があるのか」と質問を受けた。「氷点下」「3度5分」という表現を提示したが、学生の反応は「そういえばそんなものもありましたね」というものであった。アンケートの結果からも「氷点下」ということばを思い浮かべる学生はほとんどなく、「マイナス」という表現の方が自然に感じられるようであるといえる。

この傾向がすべての年代層にあてはまるかは今後の調査が必要であるが、少なくとも今回調査対象となった20歳前後の大学生のほとんどが「マイナス3点5度」という表現を使用しているというのは明らかである。テレビ局で約半数が使用している「氷点下3点5度」という表現は、今回調査した学生の間では日常ほぼ使用されておらず、局側と学生との間で使用実態にズレが生じていることが確認できた。

今回、アンケートに答えた学生は、ほとんどが西日本出身者である。大阪の場合最低気温が0℃未満になるのは年平均6.8日、神戸は7.8日(気象庁HPより)。0℃未満になる日はほとんどなく、「氷点下」や「マイナス」といった表現を日常的に使用する機会が少ない。そのため、学校教育の中で理科や数学の授業で出てくる「マイナス」表現が回答に多く現れたと推測できる。0℃未満になる日が、大坂・神戸より格段に多い北日本や日本海側などでは異なった結果が出るのではないかと予想されたため、青森県にある大学の学生に新たに調査を行った。青森市で最低気温が0℃未満になるのは年平均106.2日、弘前市では119.6日(気象庁HPより)である。

表 11 「気温の表現」読み分け弘前学院大学

対象 \ 気温の表現	氷点下 3 度 5 分	氷点下 3 点 5 度	零下 3 点 5 度	マイナス 3 点 5 度	合計
弘前学院大学 (人数)	0	2	0	73	75
(割合)	0	2.7	0	97.3	100

弘前学院大学での結果は、「マイナス」が 97.3% で、KW12 を除いた甲南女子や甲南大学との結果 99.1% とほとんど変わらなかった。今回の調査では気温の表現の仕方に地域差は見られなかったことになる。

## 7. おわりに

今回の調査によって、ニュース原稿や放送用語の基準が民間テレビ放送局にも存在し、そのほとんどがニュースネットワークのキー局（在京テレビ局）の基準に準拠しており、その基準は NHK の場合と同様に資料化されている事実も確認できた。

テレビ放送局によることばの選択については、「日本」という語の読み方と「気温の表現」について、学生の実態とテレビ局との間には乖離があることもわかった。普段使用していることばがテレビから流れてきた場合、学生は違和感を覚えるかもしれない。

民間テレビ放送局の放送用語やニュース原稿は、テレビ放送局が多くの人間に対するメッセージの伝達媒体であるという点から考えても、きわめて興味深い研究対象である。今回は視聴者のひとつのサンプルとして大学生をその対象としたが、今後は視聴者の全体像をとらえるために、子供や高齢者といった幅広い年齢層で同様のアンケート調査、および自然・生活環境や居住地域を変えての同様の調査も必要となってくるだろう。

本稿は、甲南大学に提出した修士学位論文「ことばの選択におけるコミュニケーション論的考察」（指導：都染直也教授）の一部である。「メディアとことば研究会」（2012 年 6 月 23 日）で発表し、その際にいただいた意見やアドバイスを基に新たなデータなどを加え、修正・加筆したものである。研究会でお世話になった先生方、追加調査にご協力下さった弘前学院大学の今村かほる先生に、この場を借りてお礼を申し上げます。

### 参考文献

- 石野博史（2003）「放送用語の基準とその変遷」『日本語学』22 明治書院  
 井上ひさし（1993）『日本語日記』文藝春秋  
 金田一春彦監修秋永一枝編（2010）『新明解日本語アクセント辞典 CD 付き』三省堂  
 小池清治（2001）「『日本』は「にほん」か、「にっぽん」か？」宇都宮大学国際学部研究論集』第 11 号  
 小松英雄（1981）『日本語の世界 7 日本語の音韻』中央公論社  
 佐藤茂（1971）「ニホンとニッポン」『講座正しい日本語 2』明治書院  
 柳田征司（1983）「にほん（日本）」『語誌Ⅲできる〜わんぱく講座日本語の語彙 11』明治書院  
 北原保雄編（2010）『明鏡国語辞典第二版』大修館書店  
 新村出編（2008）『広辞苑第六版』岩波書店  
 日本国語大辞典第二版編集委員会（2001）『日本国語大辞典第二版第 10 巻』小学館  
 松村明編（2007）『大辞林第三版』三省堂  
 山田忠雄ほか編（2012）『新明解国語辞典第七版』三省堂  
 朝日新聞社用語幹事編（2010）『朝日新聞の用語の手引き』朝日新聞出版  
 日本新聞協会懇談会放送分科会（2003）『放送で気になることば』日本新聞協会  
 日本新聞協会懇談会放送分科会（2011）『放送で気になる言葉 2011』日本新聞協会  
 民間放送連盟編（2009）『民法連放送基準解説書 2009』コーケン出版  
 民間放送連盟編（2009）『放送倫理手帳』コーケン出版  
 NHK 放送文化研究所編（2000～2012）『放送研究と調査』NHK 出版  
 NHK 放送文化研究所編（2002）『ことばのハンドブック』NHK 出版  
 NHK 放送文化研究所編（2009）『ことばのハンドブック第 2 版』NHK 出版  
 気象庁 HP <http://www.jma.go.jp/jma/index.html> 最終アクセス 2012. 10. 13. 16:00